

第9回 イノベーション政策強化推進のための有識者会議「AI戦略」

(AI戦略実行会議)

議事要旨

1. 日 時 令和4年4月14日(木) 17:00~18:00

2. 場 所 オンライン開催

3. 出席者

座 長	安西 祐一郎	日本学術振興会顧問
	北野 宏明	ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長
	神成 淳司	慶應義塾大学環境情報学部教授

関係府省

大塚 幸寛	内閣府審議官
米田 健三	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官
井上 諭一	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補 内閣官房内閣審議官
次田 彰	内閣官房副長官補付内閣参事官
奥田 武夫	内閣府知的財産戦略推進事務局政策企画調査官
吉屋 拓之	内閣府健康・医療戦略推進事務局参事官
平岡 成哲	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長補 (内閣府総合海洋政策推進事務局長)
平本 健二	デジタル庁データ戦略統括
赤阪 晋介	個人情報保護委員会事務局参事官
山内 智生	総務省大臣官房審議官(国際技術・サイバーセキュリティ担当)
坂本 修一	文部科学省大臣官房審議官(研究振興局及び高等教育政策連携担当)

浅沼 一成	厚生労働省危機管理・医務技術総括審議官
山口 潤一郎	農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官
田中 哲也	経済産業省大臣官房審議官（産業技術環境局担当）
加藤 雅啓	国土交通省大臣官房技術総括審議官
廣瀬 昌由	国土交通省大臣官房技術審議官
加藤 学	環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室長
堀江 和宏	防衛装備庁技術戦略部長
根本 朋生	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官

#### 4. 議題

##### （1）新たなA I 戦略の策定について

- ・「A I 戦略2022」の検討について（事務局）
- ・各省庁からの説明（総務省、文部科学省、経済産業省、防衛省）

##### （2）討議

#### 5. 資料

- 資料1 : A I 戦略 2022（案）の概要
- 資料2－1 : A I 戦略 2022（案）
- 資料2－2 : A I 戦略 2022 別紙（案）
- 資料3 : A I 戦略 2022（案）の概要  
（「統合イノベーション戦略推進会議」提出資料案）
- 資料4 : 総務省提出資料
- 資料5 : 文部科学省提出資料
- 資料6 : 経済産業省提出資料
- 資料7 : 防衛省提出資料

## 6. 議事要旨

事務局から、資料1、資料2-1、資料2-2、資料3に基づき、AI戦略2022（案）の概要等が説明された。また、総務省、文部科学省、経済産業省、防衛省から、AI戦略2022に関連したAI関係の取組について説明があった。

その後、自由討議が行われ、事務局からの提出資料については、一部修正を行うこととなったが、詳細については座長一任とすることとなった。

また、関係資料については、今後予定されている統合イノベーション戦略推進会議へ提出することが了承された。

なお、自由討議における主な発言は以下のとおりである。

### 【差し迫った危機への対処に関連して】

- ・本AI戦略では戦略目標0：差し迫った危機への対処を作った。南海トラフ／首都直下地震、富士山噴火などがそれほど遠くない時期に起きると考えたとき、あるいは次のパンデミックが発生すると考えたときどう対応するかが重要。AIはここで非常に重要な役割を果たすだろう。
- ・地球環境変動、サステナビリティの問題等に対応していくためには、デジタル化を進めデジタル・ツインを構築し、AI活用を進める必要がある。このとき、AIシステムが信頼性を持っていること、サイバーセキュリティに対応できレジリエントかつレスポンスブルなものであることが重要。
- ・AI利活用を支えるデータの充実に関して、例えば本人同意の問題、データ連携を考えたときの分野毎のオーナーシップの考え方など、単にインタフェースを整えればよいというものではない。根源的な問題の議論が不十分なままデータ充実に図ってはならない。また、データ経済圏を考えると、我が国として何を守るかという議論も必要。このようなことを考えた上でデータの充実を進めていくべき。
- ・今回戦略に明確に書き込んだのは復興の準備。災害が起きてからではなく、今から復興の戦略を練っておくべきだという点を強調したい。弱った日本経済で、人的・経済的に甚大な損失を被る災害からいかに復興していくかということが、非常に大きなポイント。AIの社会実装では危機への対処を前提で考えてほしい。

### 【社会実装の推進について】

- ・実装のやり方や構想に関しては戦略目標0を意識してほしい。それを意識した社会実装で、レジリエントなシステムを作っていく、または海外と広く強力に連携していくことによって、日本で何かあったときに事業が生き残れる。また、それをテコに日本のその後の復興を強力に推し進めることができる。
- ・デジタル・ツインの構築に際しては、社会の持続性・安全性を担保するための全体設計、その上で産業競争力を高めるためにどのようなデータを使うかというような要素を設計することが重要。特にライフラインインフラに関しては、別途検討する必要がある。

### 【教育改革、研究開発について】

- ・人材育成にする戦略目標1は、AI戦略2019で大きく展開できたと考えるが、これからはしっかりとフォローし、更にスケールさせていかねばならない。
- ・コロナウイルス感染症が収束してくると、海外からの学生がまた日本に入ってくるようになると思うが、海外から日本にAI・データサイエンスを勉強しに来るように充実させてほしい。卒業後も日本に滞在し、日本との仕事をしていただく、又は帰国の後も日本と強いつながりを持って働いていただくといった、ネットワークを作ることが極めて重要。多様性を最大化するような方法をとらなければこの後、日本経済はどんどん弱まっていくと思う。どれだけ多様な人材を呼び込めるかという点は非常に重要なので、その起爆剤になるような取組の充実を目指してほしい。

### 【その他】

- ・一頃AIというと、AIだけの技術をただインプリメントすればよいという感覚があったように思うが、今は社会のデジタル化と、いわゆるデジタルトランスフォーメーションの中でAIが効果を発揮していくことが理解され始めていると思う。AIは人と協調する、ビジネスケース、目標、やりたいことがあってAIは初めて理解できる、AIはむしろデータを集めるためにも役に立つといったことも理解されてきている。日本の経済の再生は非常に大きな課題で、DXの中での経済再生あるいは危機への対応に、AI戦略2022が一つの大きな方向性を示せるとよい。